

令和8年2月23日

脱炭素シンポジウム

# 生駒流！まちづくりで実現する 脱炭素型コミュニティ

こむらさき まさし  
生駒市長 小紫 雅史

# 今日お話ししたいこと

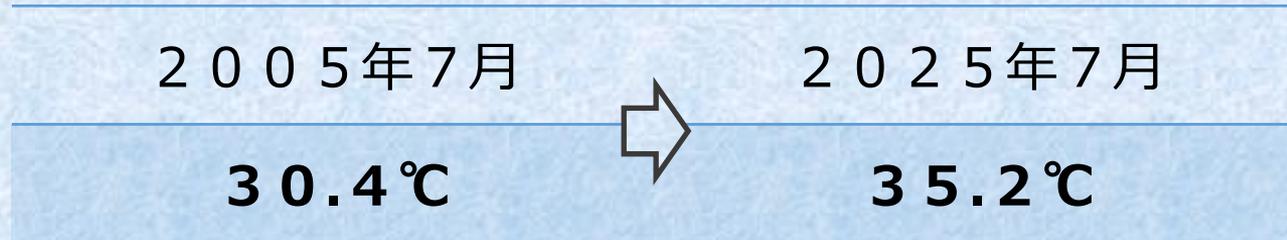
- I 日常生活に深く関わる気候変動
- II 生駒市版「まちのえき」
- III 脱炭素先行地域事業の概要
- IV さいごに

# I 日常生活に深く関わる 気候変動

# 最高気温の上昇

20年前と比べ、**4.8℃**上昇

最高気温の平均(奈良県)



気象庁公表データより

- ・ 熱中症による健康被害 R6：約1,300人 R7：約1,500人  
※奈良県消防救急課報道発表より
- ・ エネルギー、電気代高騰
- ・ 食糧価格などの高騰

# 市民の環境問題への関心は？

Q. R9年度末に市が目指すまちの状態に対する各分野の重要度

順位	施策
1	生活環境
2	こども・子育て支援
3	学校・教育
4	都市基盤
5	高齢者支援・障がい者支援
⋮	⋮

**8 脱炭素・循環型社会**



他の行政課題と比べて  
関心が低い



「環境・脱炭素」の取組  
に理解を得る難しさ

# だからこそ！まちづくり全体で考える◎

環境問題をまちづくりに組み込む



市民の関心が高いまちづくり

(福祉・健康、子育て、移動・買物支援、防災)



結果的に脱炭素につながる仕組みをつくる

## Ⅱ 生駒市版「まちのえき」

# 歩いて行ける「まちのえき」のイメージ

**市民**

余った食料、本食器、生ごみ

公園や自宅の緑化、栽培などに活用

**農業者**

堆肥

○R7.9月時点  
16カ所20自治会で設置

○R8年度中に  
50カ所の設置を目標

**「地域コミュニティの場」**



**環境・3R(ゴミステ)**

- ・生ごみを堆肥化
- ・もったいない食器市
- ・フリーマーケット
- ・資源回収・分別
- ・家で余った食料

**健康・文化**

- ・百歳体操・軽スポーツ
- ・まちかど図書館
- ・音楽・文化
- ・出前講座
- ・移動保健室

・乗り合い自動車・青パト  
(災害時非常電源・簡易な避難所)

**コミュニケーション**

- ・地域食堂・Cafe
- ・地域サロン・お茶会

**買物・食事・生活支援**

新鮮野菜米

- ・農産物の朝市
- ・スーパーの移動販売
- ・キッチンカー
- ・ゴミ出し、草刈り支援



**子育て・女性活躍**

- ・こども・地域食堂→持ち帰り
- ・託児・小規模保育
- ・コワーキング・テレワーク
- ・コミュニティでの創業
- ・公園を活用した子育ての場
- ・みんなのプール

フードドライブ

地産地消、移動支援、地域活性化を、地域の協創で実現！



移動スーパー

免許返納で買い物が難しい  
一人暮らしで食事・栄養確保不十分  
子育て中、3食作るのが負担



移動スーパーや地元野菜の買い物ができる  
キッチンカーが来て食事ができる  
野菜がたくさん売れる、食品ロスが減る



キッチンカー

結果として

車1台ずつでスーパーに買い物に行く  
レストランに食事に行くよりもCO2削減  
地元食材消費増によるCO2削減





## まちかど図書室

自治会館に若い世代が来ない  
家の断捨離を進めたい  
市の図書館まで行くのが大変



漫画や絵本があり、子どもや子育て層が来る  
断捨離の良い機会

徒歩圏内で本が借りられる、勉強できる、遊べる



## 自習室

結果として

一人ずつ家で過ごすよりCO2削減  
自然な形でクールスポットになる  
本のリユースにも



集会所に太陽光パネル

自治会集会所に太陽光パネル・蓄電池を設置



自ら発電した再エネ電気を集会所で  
使用してCO2削減

グリスロを運行する電力としても利用できる



グリースローモビリティ

結果として

平時の移動支援でもCO2削減  
災害時の電力インフラとして利用できる

# Ⅲ 脱炭素先行地域事業の概要

# ＜従来からの取組＞

## ◆いこま市民パワー株式会社

(平成29年7月設立)

～まちの魅力向上・課題解決に、  
エネルギー・脱炭素を切り口に取り組み～  
“再エネ電気の地産地消”を促進！

## ◆（一社）市民エネルギー生駒との連携

- ・全額市民出資により市民共同太陽光発電所を設置・運用
- ・アクティブシニアの活躍  
(環境省、エネ庁など受賞多数)

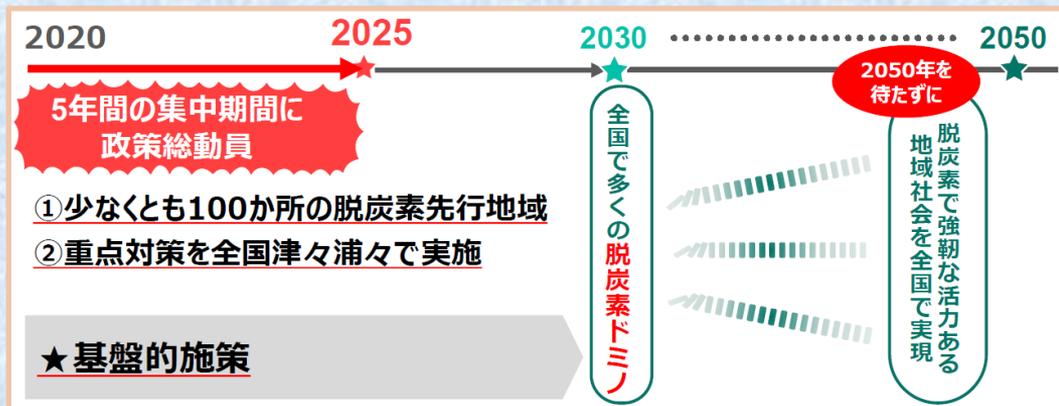


▶▶ **脱炭素先行地域に選定されたことにより取組を加速！**

# 脱炭素先行地域とは



- ・ 国が、令和7年度までに、全国で102か所の地域を選定
- ・ 2050年カーボンニュートラルに向けて、国が積極支援を実施し、2030年度までに脱炭素化を実現するモデル地区を創出
- ・ モデルを全国に伝搬し、2050年を待たずに、脱炭素達成を目指す



生駒市は2023（令和5）年4月に選定

## 【生駒市の取組内容】

### 既存住宅地での脱炭素先行地域づくり

- ◆住宅地モデルでの取組は、市民一人ひとりの意識・行動を変える必要がある → 難易度【高】

＜生駒市の特長＞

- ・市民力の高さ
- ・コミュニティ活動が活発



これらを活かして、これまでできていなかった「既存住宅地」の脱炭素化に取り組む



⇒ 「**まちのえき**」の土台の上に、防災・福祉・子育てを連携させながら自治会集会所、各家庭の脱炭素化を進めていく！

既存の住宅地から**自治会単位で公募**し、モデル地域とする **(全国初)**

# 【生駒市のモデル地域】（2地区 1,345世帯）

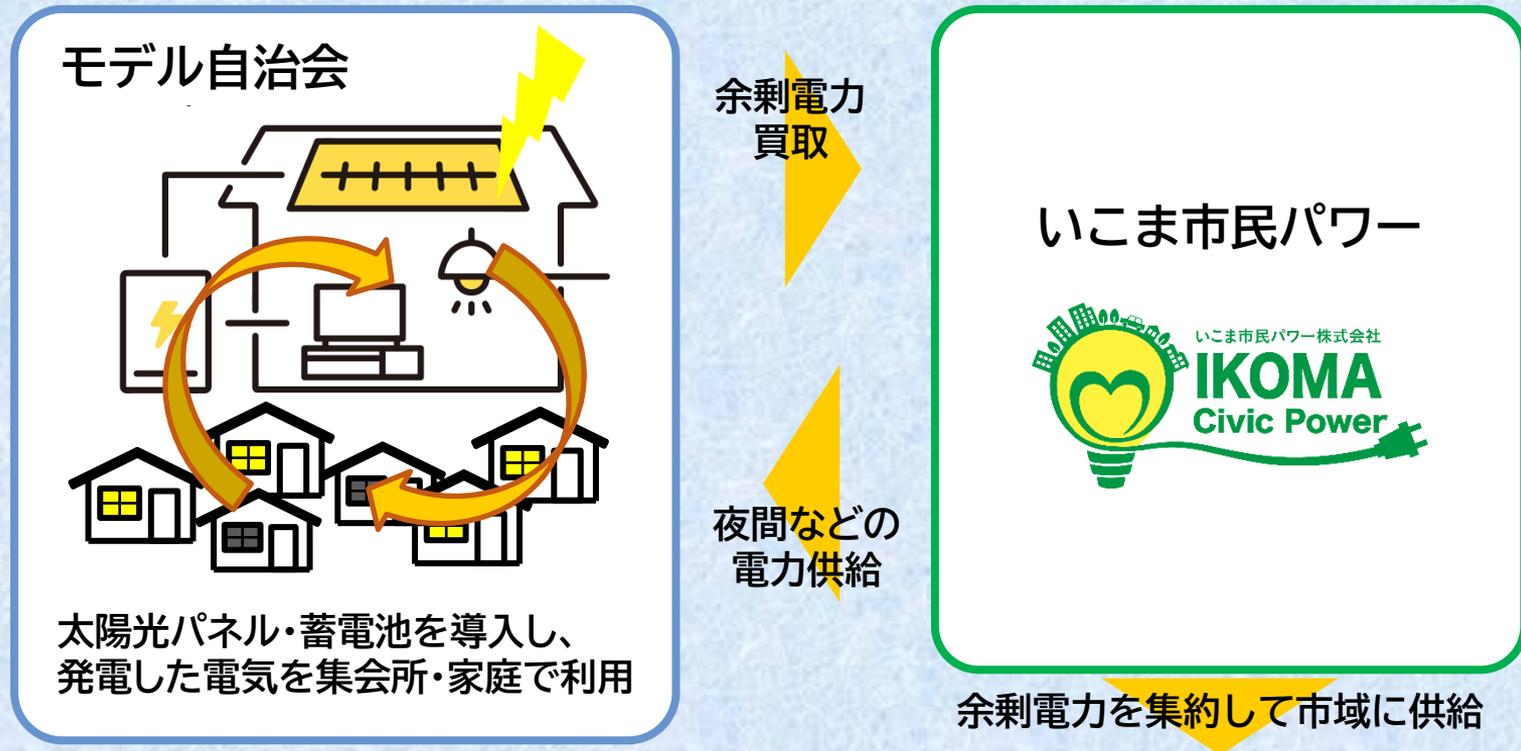
## 「ひかりが丘自治会」 ・ 「萩の台住宅地自治会」



- ▶ 国の脱炭素交付金（**2/3**の補助金）を受け、太陽光パネル・蓄電池を導入
- ▶ TJグループHD木質バイオマス発電所（北田原町）の再エネ電力の活用

# ◆いこま市民パワーとの連携でモデル地区の脱炭素化を実現

⇒いこま市民パワーが余剰電力を活用することで市域の脱炭素化にも貢献



## ◆太陽光パネル・蓄電池の設置を進める3つの理由

### ① 限りあるエネルギー資源を守る！

地球温暖化対策としてできること

その一つが「再生可能エネルギー」の活用です

→温室効果ガスが発生しない

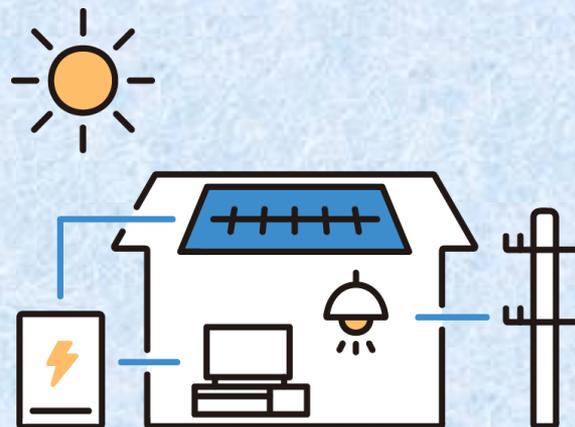
→エネルギー源が枯渇しない

→エネルギー自給率をUPさせる(国内で生産できる)

なかでも身近で取り組みやすいのが

## 「太陽光発電」

電気は、創って、ためて、使うことができる時代です



◆太陽光パネル・蓄電池の設置を進める3つの理由

②災害に強くなる！



**停電**しても**安心**  
**自宅・集会所**が**身近な避難先**に

電気は私たちの生活に欠かせないものです。

自宅や集会所に太陽光パネル・蓄電池を設置することで、

停電時にも電気が使え、

指定避難所まで避難することが難しい方も、

安心につながります。

## ◆太陽光パネル・蓄電池の設置を進める3つの理由

### ③ お得になる！

家庭で太陽光パネルと蓄電池を設置するには、どれぐらいお金がかかるの？

- 太陽光パネル (5kW)  
**156.0万円** (1kWあたり31.2万円)
- 蓄電池 (7kWh)  
**133.7万円** (1kWhあたり19.1万円)
- 太陽光パネル+蓄電池の合計  
**289.7万**



今だけの2/3補助

を活用すると、

**96万円**で

設置可能

◆これまでの太陽光パネル・蓄電池の導入実績

- ・ひかりが丘・萩の台住宅地の2地区45世帯
- ・自治会館1ヶ所、公共施設13ヶ所

※今後、自治会館・集会所8ヶ所、公共施設6ヶ所追加予定

⇒新たに導入した太陽光パネル：1,300 kW



あすか野小学校

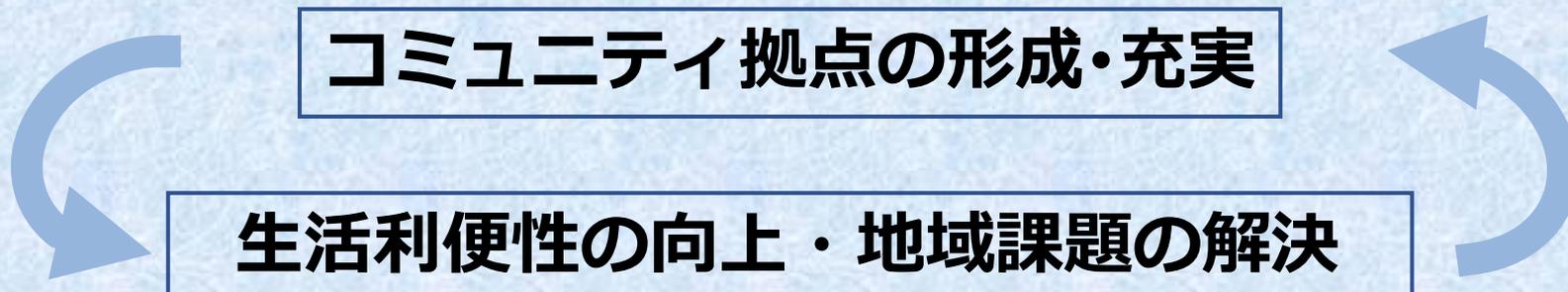
◆R7.10月～R8.1月 モデル自治会の追加公募を実施

応募があった10地区の選定に向け調整中

**市全域への取組の拡大を目指します！**

# IV さいごに

- ✓住宅都市・生駒の脱炭素化は、市民一人ひとりがコミュニティ活動に参加し、行動を起こす必要がある
- ✓**国の強力な支援**を得て、モデル地区の拡大と、太陽光発電・蓄電池の最大限の導入実現へ



コミュニティ拠点の形成・充実

生活利便性の向上・地域課題の解決

・買い物支援・食事支援・住民間の交流促進・子育て支援・災害対策

↓

市民の満足度を向上させつつ、脱炭素を実現！